

高校時代、 何を大切にしてい いたか？

高校生自身は自分をどうとらえているのでしょうか。
高校を卒業して間もない元高校生たちに、18歳の自分をつくったもの、
進路選択のきっかけなど、データだけでは見えない
等身大の高校時代について語ってもらいました。

取材・文／長島佳子
撮影／阿部健一（19ページ）、竹田宗司（22ページ）、吉永智彦（25ページ）

公立高校→就職+専門学校通信課程

※2023年3月卒業

飽きっぽい自分がのめり込んだ美容師の世界で、 新しいことをやってみたい！

鹿追高校(北海道・道立)卒 遠藤翔太さん

Q 将来の夢は？
美容師になって自分の
理想の店をつくること

Q 高校卒業後の進路は？
高校から続けてきた
通信制の美容学校で学びながら
美容室で働き始めます

Q どんな自分でありたい？
性格は熱しやすく冷めやすい
いろんなことをどんどん取り入れて、
頼られる存在でありたい

Q 夢と出会ったきっかけは？
母が美容師だったことと、子どものころから
おしゃれが好きだったこと

Q 友達とはどんな話をしていた？
YouTubeのネタとか。進路の相談もしていた

Q 高校時代にがんばったことは？
美容室とコンビニでのバイト。コンビニでは
バイトリーダーも務めた

Q 情報収集の手段は？
主にInstagram。スマホよりも家のパソコン
で見ることが多い

Q 進路選択で大事にしたことは？
やりたいことが明確だったので、早く一人
前になる方法考えた

人をキレイにして喜ばれる美容師が中学生からの夢

なりたい職業は中学校のときから美容師ひとすじ。自分のくせ毛や髪色が薄い悩みに、美容師である母がプロとしての的確に改善してくれていて、興味をもったのです。髪だけでなく小学生のころからおしゃれ全般が大好き。ジャニーズの菊池風磨くんのファッションにあこがれて、髪形とか服装を真似したり。中学生になって私服を着る機会が減って、ますますおしゃれへの関心が深まりました。

性格は飽きっぽいです。絵を描いたりマンガを読んだり、好きなことを見つけては一気に集中してやってみるんだけど、一通りできたりわかったりすると飽きてしまう。でも、唯一飽きなかったのが美容やおしゃれに関することでした。絵などの創作物は完成すると変化しませんが、髪って美容室で完成しても気候などですぐ変

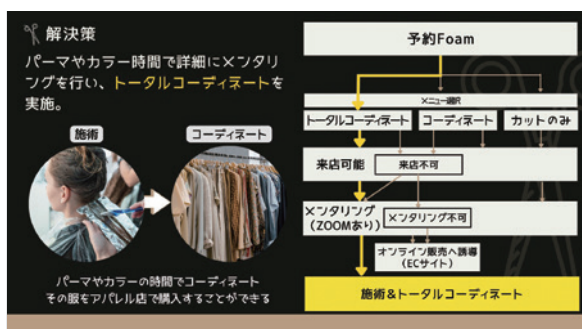
わるし、自分でアレンジできる“変化”が魅力的に感じるんです。

メイクも好きで、学校にばれない程度にメイクして行ったら女子が気づいてくれて。調べた知識を教えてあげたり、学園祭のときに女子たちに頼まれてメイクしてあげたことも。それぞれに似合うメイクをしてあげると喜んでもらえるのが嬉しかった。だから人をキレイにして喜んでもらえる美容師が向いていると思ったんです。

高校では部活はすぐ辞めてしまったのですが、暇が嫌いなんです。夢に近づくための美容室と、あとはコンビニのアルバイトを掛け持ちでやっていました。

高校と通信制専門学校の二足のわらじで夢に近づく

最初は卒業後に美容の専門学校に入って美容室に就職するという一般的な道を考えていましたが、進路先の専門学校を調べていると



【左上】高校時代からバイトしていた美容室「GOOD LIFE GOOD HAIR」にこの4月から正社員として勤務。【右上】情報収集は主に家のパソコンで複数のアプリを立ち上げながら、時間を有効に使って行っていた。【下】「高校生Ring*」の発表で作成したプレゼンシート。学校の探究ともリンクさせ、将来の夢がより具体化していくきっかけとなった。

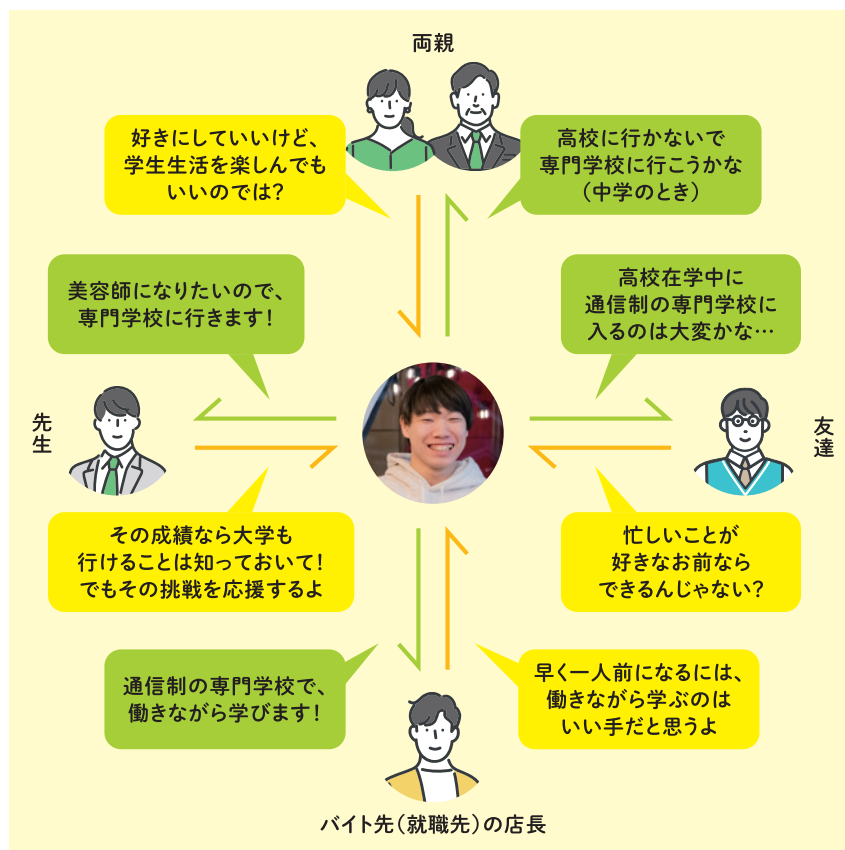
*高校生Ring：リクルートが主催する、高校生のための参加型のアントレプレナーシップ・プログラム。

きに、通信制なら高校に通いながら学べると知ったんです。美容師として一人前になるには、働きだしてから下積みの時間が結構あることを母から聞いていたので、なるべく早く現場に入っておきたかった。高校時代から継続して下積みとして働きながら美容について学べば、一人前になるまでが短縮できます。勉強も割とできたので、学校の先生は夢を応援しつつ、大学進学の間もあるぞと伝えてくれました。でも通信制の専門学校との両立を相談したら、やってみると応援してくれたのです。それで高3の10月から北海道美容専門学校の通信過程とのWスクールが始まりました。バイト先の美容室の方々も働きながら学びたい気持ちを相談したら理解してくださり、高校卒業後は正社員として雇ってくれることになりました。

総合的な探究の時間のテーマを検討していたときに先生から、「高校生 Ring」への応募を勧められました。そこで「服もコーディネートして買える美容室」というビジネスプランを考えてみたのですが、その過程で、どんなことをお客さまに届けたいか具体的にになってきて、なりたい美容師像がくっきりと見えてきました。今の夢は、早く一人前の美容師になって、30歳までに地元の帯広で自分の店をもつこと。お客さまがトータルでなりたい自分になれるよう、髪形に合う服も提供して、遠方からでも来たいと思われる店にしたいと思っています。

社会に出たら最初はうまくいかないこともあるかもしれませんが、でも、不安よりも今までにないことに挑戦できるワクワク感でいっぱいです。

Check!
遠藤さんのあり方への気づき相関図



いつもワクワクしていたいから興味があることは何でもやった。 未来の自分が何を选ぶか楽しみ

品川女子学院中等部・高等部(東京・私立)卒 松井愛花さん

Q 将来の夢は？

「教育×まちづくり」を
キーワードに起業してみたい

Q 夢と出会ったきっかけは？

高校時代に学内・学外の
さまざまな体験学習に
積極的に参加したこと

Q 高校卒業後の進路は？

大学のサステナビリティ観光学部
で幅広く学びます

Q 進路で影響を受けた人は？

母のいつもいろいろな
選択肢を与えてくれる

Q 進路の相談相手は？

家族や、学外で出会ったさまざまな大学生や社会
人の方々

Q 情報収集の手段は？

母や姉がいろいろ教えてくれる。スマホでFacebookを
見て、教育関係のイベントを探したりもしている

Q どんな自分でありたい？

常に成長してたくて、ワクワクすることは何でも
チャレンジしてみる人でありたい

Q 先生や大人からどう見られていると思う？

積極的なリーダータイプ。嬉しいし、信頼される人
になりたい

中高を通して学校内外で たくさんの体験にチャレンジ

母校は中高一貫校で、中3のときに「高校に上がったら好きなことをいっぱい体験して、将来やりたいことを見つけたい!」と思ったんです。きっかけは、姉も通っていたプログラミング教室に参加したこと。そこでは大学生がメンターを務めていて、自分の好きなことを生かしてAO入試(現・総合型選抜)で進学した人などいろんなタイプの大学生と出会って刺激を受けました。

その教室で印象的だったのが、「これからの世界は自分たちで変えて行ける」という話でした。身近な人の困りごとはプログラミングで解決していける。その小さな積み重ねで30年後の世界ができる、と。変化が加速しているなら、自分も社会を変えていく側で、社会貢献できる人になりたいと思いました。

母校も起業体験プログラムや行事など体験的な学びの場が多く、それらに参加しながら、学校外のさまざまな取組にも積極的に参加していました。

気になる取組は自分でもスマホで検索して調べますが、「こんなのあるよ」と母が情報をくれて選択肢を広げてくれることがよくありました。

例えば、居住型教育施設で大学生や社会人と一緒に暮らす「SHIMOKITA COLLEGE」も母からの情報。高2の秋に3カ月間暮らしながら学校に通っていました。夜や土日高校生向けのプログラムがあり、ビジネスについて学んだり、普段は共有スペースで雑談できたりと、さまざまな生き方の大人と触れあうことで、自分の将来像の選択肢が増えていきました。

学校では起業体験プログラムで、若者の防災意識を高めるための防災グッズを企画開発して、実際に製造して文化祭で販売しました。この体験を外部のビジネスコンテストなどで発



【左上】「SHIMOKITA COLLEGE」の共有スペースでは、自分の勉強や仕事をしている人や、その日の出来事などについて雑談する人などカフェのように自由に過ごしていた。【右上】高校の起業体験で商品開発した通学時に役立つ防災グッズ。文化祭で販売、完売した。【右下】社会人や大学生と生活を共にする「SHIMOKITA COLLEGE」の運動会でリーダーを務めた。



表したりもしていました。

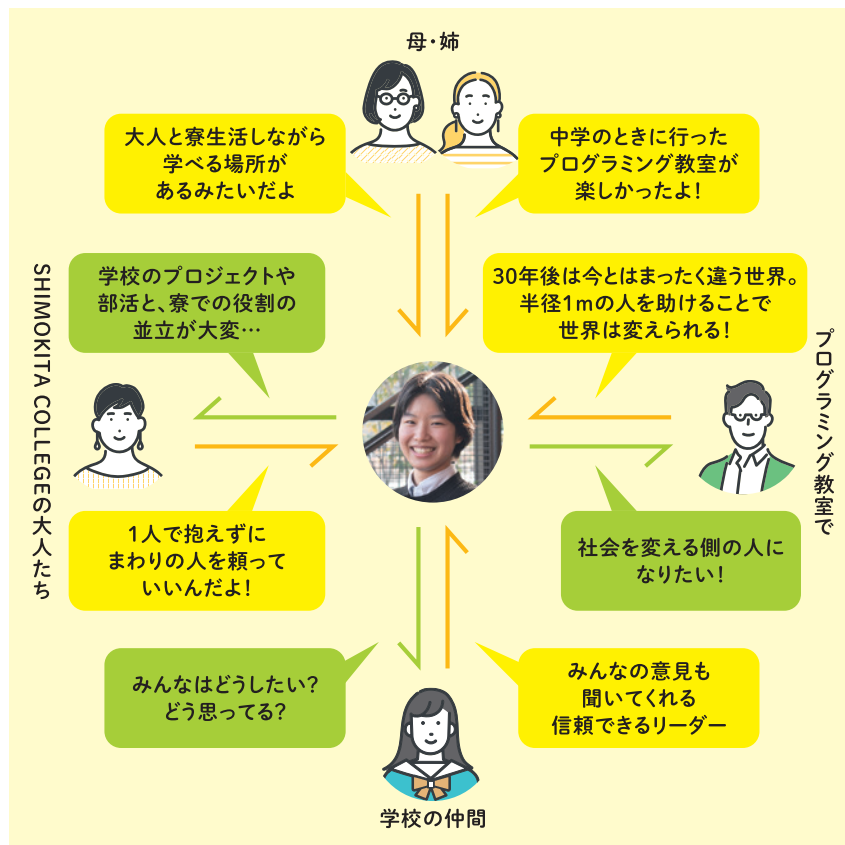
広がった選択肢のなかから 今はない仕事をしているかも

常に成長したいという気持ちが強くて、ワクワクすることがあると後先考えずにやってみなくなっちゃうんです。全部やろうとして大変になって、行き詰まることもありました。例えば、学校の起業体験や部活と「SHIMOKITA COLLEGE」でのイベントリーダーが重なってしまい、しんどい時期がありました。そのときに「SHIMOKITA COLLEGE」の大人が「まわりに頼っていいんだよ」と声をかけてくれました。自分だけで抱え込むことが責任感の表れではないと気づけた経験でした。学校の行事や体験学習でリーダーを務めたときにも、最初は先

頭を切って引っ張ろうとしてましたが、みんなの意見をしっかり聞いて、チーム力を上げた方がうまくいくと気づいたり。人から信頼される存在になるにはまわりに頼ったり、意見を聴くことが大切なことも学びました。

4月からは立命館アジア太平洋大学(以下APU)のサステナビリティ観光学部に進学します。高校時代にコロナ禍で留学を断念したこともあり、約半数が国際学生というAPUの環境に魅力を感じたのです。中学・高校でのたくさんの体験を通じて、教育を変えたことで町が活性化した事例などを知り、「教育」と「まちづくり」に興味をもちました。将来的にはこの二つをかけ合わせて起業できたらと漠然と考えています。そのころには、今はない仕事をしている気もしていて、将来が今から楽しみです。

Check!
松井さんのあり方への気づき相関図



活動的に見えて実はネガティブ。 「誰かのため」ならがんばれるから、人や地域の役に立ちたい

吉賀高校(島根・県立)卒 下野翔輝さん

Q 将来の夢は？

人と人をつなげる仕事で
地元に戻りたい！

Q どんな自分でありたい？

いろいろな人からいろんなものを
もらった経験を生かし、
お世話になった地域に
役立つ人になりたい

Q 高校卒業後の進路は？

大学の地域創生学部
で勉強中

Q 夢と出会ったきっかけは？

探検活動が活発だった母校で魅カ化コーディネーターという人に出会ったこと

Q 休みの日は何をしている？

普段活動的な分家でのんびりマンガゲーム、スマホ三昧

Q 学部で何を学んでいる？

地域実習などプロジェクト活動もたくさん経験しながら、地域の活性化について学んでいます

Q 趣味は？

コレクターでマンガ本や文房具の収集、k-POP鑑賞

Q 大学生活は楽しい？

学部の先輩が地域活動をバンバンやってる人が多く、刺激になる。サークル活動やバイトも楽しく充実している

恵まれた人間関係を通して いろんな経験を積んでいる

島根県の吉賀町出身で、現在は東京の大正大学で地域創生学を学んでいます。地元の吉賀町には地域ぐるみで子どもを育て、大学などで町外に出て積んだ経験や学びで将来、町を支える人材を育成する「サクラマスプロジェクト」というキャリア教育の仕組みがあります。高校までは学校や地元の人々から、現在は大学で先生や先輩、友人、地域実習先の人々からたくさんのことを学ばせてもらっています。いろんなものをもらってできているのが自分だと思っています。

地元にはいたころは、生徒会長を務めたりボランティア活動などもたくさんやっていたのでリーダーシップがあると思われていましたが、実は怠け者で超ネガティブ。課題提出は先延ばしにしようとするし、自分のためだとがんばれない。け

れど、「誰かのため」ならがんばれるし、人から頼られるのは好きなんです。

部活などでも楽天的に考えたり、熱くなりすぎたりして失敗した経験があったので、その反動で常に最悪の場合を考えてしまう。人からは主体性があると言われますが、地域活動に飛び回っている大学の先輩たちを見ていると、「自分なんて全然」と思ってしまいます。ネガティブなのは性格だから付き合っていくしかないと思っています。

頼られることをエネルギーに 将来、地元で恩返ししたい

中学までは安定志向だったので、高校を出たら公務員になって地元の役場に勤めるのだろうと思っていました。でも高校に入ったら3年後に働くイメージが湧かず、じゃあ何をするか考えたときに、友達や先生からは「教師が向いてるんじゃない?」と言われていました。一方で、母校で



【左上】高校時代にアントレプレナーシップ教育(総合的な探究の時間)で、世の中の職業を知るために地元で働く人取材し、動画を作成した。
【右上】地域創生に対する興味を引き出し、進路選択のきっかけをつくってくれた、大正大学の浦崎太郎教授と。【下】母校のアントレプレナーシップ教育成果発表会に参加し、先輩たちからアドバイスを求められた。

はアントレプレナーシップ教育(通称:アントレ)で地域課題に取り組んでいて、担任の先生から、現在学んでいる大正大学の浦崎太郎教授を紹介されて地域創生に興味を湧いたんです。アントレに関わってくれた地域魅力化コーディネーターの人にも出会い、地域と学生をつなぐコーディネーターという仕事が面白そうだなと。浦崎教授が所属する地域創生学部に入ったらなれるような気がして進路を決めました。

大学生活はとても充実しています。全国の地域活動に関わっていく先輩たちから刺激を受けながら、地域創生について学んでいるところです。さまざまな地域活動のなかで多数の「コーディネーター」という肩書きの人々と出会いました。でも、その人たちがやっていることがそれぞれ異なるため、「コーディネーターとはそもそも

何か?」「自分のやりたかったことは何か?」という課題にぶつかっています。「人と人をつなげたい」という軸はぶらさずに、自分に何ができるかこれからの大学生活で学んでいきたいです。

高校時代の友人たちは、地元に残った人、県内外の大学で学ぶ人など進路はいろいろです。この夏、成人式(二十歳の記念式)で集まることになっていて、幹事に任命されています。怠惰でネガティブでもみんなから頼られて任されることは嬉しいんです。地元の人たちからは「これからの町を若い力で引っ張って行って!」とプレッシャーをかけられていますが、それ自分にはエネルギーになります。地元が大好きでその理由は“人”です。どんな形であっても地元には恩返ししたいと思っています。

Check!
下野さんのあり方への気づき相関図

